

現状と課題

家庭は生涯を通じての学習の出発点であり、幼児期からの基本的な生活習慣や、他人に対する思いやり、善悪の判断など、規範意識を確立する大切な場です。

しかし、近年の少子化の進行や、情報化・都市化などの進行による人間関係の希薄化、家庭・地域の教育力の低下、子どもたちの「生きる力」の不足が指摘されており、また、子育てやしつけの仕方が分からない親の増加など、家庭教育機能の低下が懸念されております。

当市は、オホーツク海・大雪山・サロマ湖など大自然と共生しているまちであり、こうした自然環境から育まれる、生命を尊ぶ心、美しいものに感動する心、郷土を愛する心など、豊かな人間性を培うことが可能な地域であります。

このような地域特性を活かし、自然と触れ合う体験活動を通じ郷土愛を育む心を育成するとともに、学校・家庭・地域の連携や世代間交流を大切にしながら子どもたちの「生きる力」を養い、生涯にわたり地域や家庭における教育力の向上を図っていく必要があります。

また、家庭における父親の存在感の希薄化や、育児や暮らしにおいて深刻な問題を抱えている父子家庭も少なくないことから、父親のための子育て支援や父子家庭にとって有益な支援をしていく必要があります。

主要施策

1

家庭において、子どもが家族の一員としての役割を果たし、自信と生きる力をつけることができるよう子どもの各成長期に合わせた学級やセミナー、講演会、自主グループの育成を図り家庭や地域の教育力を高めます。

2

子どもの自立を支援するため、保育園・幼稚園、学校と地域、家庭が連携しさまざまな体験学習や異年齢・異世代交流の機会を設けるなど、多様な人間関係を築くことができる機会や場の充実を図ります。

3

幼稚園や保育園を拠点として、子ども同士の遊びや保護者の交流・学習機会の充実に向けて、自主的な子育てサークルの育成を支援します。

4

専門的な相談などに対応できるよう母子自立支援員や婦人相談員など専門性の向上を図るとともに関係機関や団体との連携を深め、母子家庭の自立を促進します。

5

子どもの発達段階に応じた家庭教育の在り方についての学習情報や学習機会の提供に一層努めるとともに、親子が触れ合える機会や場を積極的に設けます。

6

「家庭教育5つのふれあい」の普及啓蒙など、地域で子どもを育てる環境づくりの推進を図るため、様々な角度からその充実を図ります。

7

民生・児童委員、児童家庭相談の充実を図り、要保護児童の家庭や母子・父子のひとり親家庭など、保護や支援が必要な子どもや家庭に対し、効果的な支援ができるよう各機関等との緊密な連携を図り、健やかに安全かつ安心して生活ができる環境づくりを行う。

現状と課題

青少年を取り巻く環境は、社会の少子高齢化、核家族化、情報化や価値観の変化など、大きく様変わりしており、若者のコミュニケーション能力や規範意識の低下に起因する人間関係の希薄化、社会的不適応者の増加が指摘される中、青少年の意欲を高め、心と体の相伴った成長を促すことが今日的課題であると指摘されています。

青少年の健全育成を推進していくためには、青少年が正義感・倫理観を持った豊かな人間性を育み、社会における自らの役割と責任を自覚することができるよう、学校・家庭・地域が連携を深め、社会全体で子どもを守り育てる気運を醸成していくことが重要です。

本市では、主体的に社会貢献のできる人材育成を目指した青少年リーダー事業や青少年国際交流事業、青少年のボランティア活動などの社会性を育む体験活動を推進してきています。また、児童の健全育成の拠点施設となる児童館の整備や青少年が安心して暮らせる地域環境の整備、非行防止活動に取り組んできました。

また、市内の中小企業で働く若者の活動の場である勤労青少年ホームでは、これまで文化スポーツのサークル活動や青年祭など様々な事業を行ってきておりますが、若者のニーズを的確に把握するとともに、地域・企業・若者の連携を密にし、勤労青少年ホームにおける活動を一層活性化させていく必要があります。

今後は、こうした事業を更に充実させるとともに、近年における若者の社会的自立の遅れなどが深刻な課題であることから、これら青少年をめぐる諸問題の解決に向けて総合的な施策を推進してまいります。

主要施策

1

「北見市子ども会育成連絡協議会」を支援し、優れた事例の紹介や子ども会リーダーの交流を図る「子どものつどい」の開催など、子どもの遊びや体験活動の充実を図るとともに、各地区子ども会育成者と自治組織との連携、単位子ども会の再編を促進します。

2

児童館・児童センターにおいて、乳幼児子育てふれあい事業や文化・体力増進活動、世代間交流事業をはじめ、チャイルドアドバイザーの協力による子どもの健全育成の充実を図ります。

3

青年の学習ニーズの把握に努め、自主的なクラブ・サークル活動の支援や学習機会の充実を図ります。

4

「放課後子どもプラン」の推進に向け放課後子どもプラン運営委員会において事業案を作成し、留守家庭などの子どもたちが放課後安心して過ごせるよう、児童クラブの活動内容の充実を図るとともに、自治区毎に児童館等を拠点とした子どもの居場所の確保と遊びや体験の充実を図ります。

5

青少年活動の活発化に向けて、少年リーダー研修の充実、青少年活動指導者の養成、小・中・高生との連携、体験活動ボランティアの育成などを図ります。

6

家族や地域、関係機関が連携し、青少年一人ひとりに寄り添い、成長を支援するとともに、いじめや不登校、引きこもり、問題行動などの悩みについての相談・助言の充実を図ります。

7

不審者や有害図書・有害サイトから青少年を守るため、地域ぐるみの安全・安心な環境づくりを促進します。

8

将来の地域産業を担う人材を育成するため、産業団体や企業と連携し、職業知識や能力を高める学習活動の提供や職場体験機会の充実を促進します。



9

青少年層に対しては、同世代とのふれあいや社会との接点の場をつくり、アウトドア活動、スポーツや文化活動、ボランティア活動や祭りなどの地域活動、姉妹都市との地域間交流や国際交流など、自主的な活動への支援の充実を図ります。

10

青少年を地域活動等社会形成にあたって貴重な役割を担う一員として捉え、家族や社会のため自ら行動するよう指導育成を図るとともに、青少年の持っている能力や考え方を引き出すための支援を行います。

目
標

指 標 名	現状値(H19)	目標値(H25)
児童センター・児童館数	15ヶ所	16ヶ所
児童館各種事業実施回数	4,835回	5,000回
児童クラブ開設率	93%	97%
児童クラブ登録者数	854人	900人
児童クラブ利用者	96,726人	98,000人
児童館年間利用者数(15館)	234,386人	235,000人
チャイルドアドバイザー登録数	47人	60人
チャイルドアドバイザー事業	5,258人	6,000人
青年ジェット参加数	5人	5人
少年リーダー研修登録人数	259人	260人
少年リーダー研修参加者	506人	520人
青少年健全育成地域組織数	12団体	14団体

現状と課題

我が国の高齢化は世界に例を見ない速さで進行しており、65歳以上の高齢者が全人口に占める割合は、1970年(昭和45年)に総人口の7%を超え高齢化社会となり、さらに1994年(平成6年)には14%を超え高齢社会に入りました。

本市における高齢化率は、平成17年度の国勢調査によると21.6%で超高齢社会となっており、10年後の平成30年には32.4%と3人に1人の割合になると予測されています。

高齢者が心身ともに健康で生活していくためには、医療・福祉の充実等に加え、ボランティア活動などの社会参加の促進や、高齢者の生きがいにつながる学習機会を充実させることが重要です。

本市では、高齢者が心身ともに健康で生きがいをもって豊かな生活を送ることができるよう、これまで多様な学習機会の提供を行ってきておりますが、今後においては高齢者の知識・技能・経験を地域社会に還元できるようにすることが必要となっております。

主要施策

1

高齢者同士や世代間の交流、生涯学習や高齢者に適したスポーツ・レクリエーションなど、高齢者クラブの自主的な活動を支援します。

2

高齢者の自立と社会生活の拡大を支援するため、社会参加促進に向けた助成などを行います。

3

高齢者の知識・技能・経験を地域社会に生かそうとする意識を啓発するとともに、それらを生かす場の提供に努めます。



4

保健やスポーツなどの行政内における各課や関係団体と連携し、健康づくり講座や介護予防講座などを開催するとともに、自主的な健康づくり活動や介護予防活動を推進します。

5

高齢者の多様化した学習需要に対応し、高齢者大学における学習プログラムの開発や学習内容の充実を図ります。